

コロナ禍を踏まえた、観光振興とシティプロモーション

コロナ禍を踏まえた、大規模災害への備え

第54号 ごあいさつ

54号は、6月議会におけるふたつの大きな問題をテーマとしました。

1つめは『**コロナ禍を踏まえた、観光振興とシティプロモーション**』です。

コロナ禍での消費者の旅行・観光への変化を踏まえて、観光事業への支援策、感染防止と観光の両立、「エール」効果を活かした対策、中長期的な基盤の強化について議論しました。

2つめは『**コロナ禍を踏まえた、大規模災害への備え**』です。

記録的な大雨が珍しい時代、また本格的台風シーズンを前に、指定避難所での感染症予防対策の現状と課題、感染症拡大が危惧される中での避難の考え方、自治体間での相互応援協定など、今急がれる課題について議論しました。



コロナ禍を踏まえた観光振興とシティプロモーション【質問の意図】

■ここ数年におけるインバウンド、訪日旅行を主体に展開されてきた観光業は、労働集約型で裾野が広い産業です。

■雇用や所得への影響が、大きいことが特徴であり、今や国内外の観光客が、旅行で消費した金額、経済的な付加価値効果は、自動車製造業に匹敵する状況ですが、現在はコロナが木っ端微塵に壊しています。

■コロナ禍が収束すれば、人々の往来は戻ってくるとおもわれますが、従来と同じというわけには行かないともいわれています。

■日本観光振興協会は、

- 幅広い緊急支援対策の必要性について
- 感染防止と観光が両立する地域内需要の創出について
- 国内の収束後、国内観光のV字回復を狙った大胆な対策について
- 中長期的な観光事業者の経営基盤の強化、を要望しています。

■今後は国県の動向を見極めながら、日本(東京、大阪)の中央に位置する変わらぬ立地の良さや、朝ドラ「エール」を生かした新たな観光振興、休業時見直した観光業のスキルアップなど、今だからこそ出来る準備が欠かせないことと思われます。

■また豊橋観光コンベンション協会や、東三河広域観光協議会ははじめ、県や広域連携した取り組みも必要と思われます。

影響を受けた観光事業者支援策への認識と課題について【産業部長】

●国の「GO TO キャンペーン」実施など最大限に活用しますが、感染拡大防止に最大配慮しての、経済活動再開が課題です。

感染防止と観光が両立する、域内需要の創出について【産業部長】

●これから最も重要視しなければならないものは、本市を訪れる方々が「安心・安全」に旅行ができる環境の整備です。

中長期的な観光事業の基盤を強化する本市の政策について【産業部長】

●「新しい生活様式」の実践とともに、移動や公共交通機関の利用など官民協働で進め、「安心・安全」な観光地としての基盤整備を、まずは本市近隣から、そして国内広域、海外からの誘客と段階を踏みながら中長期的に対策を進めて参ります。

「エール」効果を活かすなど、国内のコロナ収束後、国内観光のV字回復を狙った大胆な対策への本市の役割について【企画部長】

- 「エール」はこの地域を日本中に知らしめる大きなチャンスです。
- 放映に併せての観光パンフレット、ヒロインのモデル金子さんの漫画、専用ホームページなど、誘客の仕掛けを数多く用意してきました。
- 非常事態宣言の影響により全国に向けたPR活動やイベントなど、いくつかの取組みが延期又は中止となりましたが、タイトルバックに登場する表浜海岸など様々な豊橋の魅力を知ってもらおう情報発信を行っています。
- また、連続テレビ小説は大変多くの方の関心を集めることが出来るばかりか、番組を見て勇気づけられている方も多く、**長期的なプロモーションが可能**であると考えています。

●この「エール」効果を、民間の商品開発やイベントの実施はじめ、地域をつないでの連携、広域的な視点から東三河をつなぐこと、福島市など関係都市との連携、さらに、「エールを送るまち豊橋」として都市そのもののイメージや新たな価値の発信が本市の役割と考えています。

●そのことにより、この地域に関係を持ついわゆる「**関係人口**」を増やし、いかに地域の活性化につなげていくかが重要だと考えています。

「エール」を活かした定住人口増加についての考え方について【企画部長】

●コロナ禍の状況からか、ドラマの影響からか様々な場面で「エール」という言葉を耳にします。ドラマに関係していることで豊橋をエールと結び付けて認知する人も多いと思われます。実際にドラマの中では音さんが裕一さんを応援するシーンが多くあります。

●このため、豊橋は頑張る人やチャレンジする人のみでなく、何かに取り組んでいる人、失敗してしまった人など、**誰をも応援するまちというプロモーションを展開するチャンス**でもあると考えています。

●最近では**市政SDGs調査で満足度1位**、愛知県民が選んだ**住みたい街ランキングで3位**になるなど豊橋の住みよさが高評価となっています。

●一方でこの高評価については、調査対象者が市民や県内の住民からのものであり、そのイメージを全国的に知っていただくことも重要です。

●連続テレビ小説「エール」からくる豊橋市のイメージアップを追い風に、豊橋市の住みやすさを織り交ぜた、豊橋ならではのライフスタイルをしっかりとPRしていくことで、**定住人口の増加につなげていきたい**と考えています。

コロナ禍を踏まえた大規模災害への備えについて【質問の意図】

- 一般論として、避難所は3密、・・・「密接」「密集」「密閉」です。
- もし今、台風、地震、停電、断水など大規模災害が起きたら従来の心配ごとに加え、新型コロナウイルス等の感染症など、避難所へ行くことへの心配は尽きません。
- 災害時の帰宅困難者対応も同様です。
- また、これまで大規模災害時には世界中から支援チームや物資が届いていましたが、世界各国が大変な今、できる限り「自分の身は自分で守る時代」が来たといわれています。
- 近時における小規模な地震活動の活発化と、未だに対応に苦慮するコロナ禍を鑑み、本市が今まさにすべき防災危機管理とは何か。
- そこで、コロナ禍を踏まえた大規模災害に対する備えへの認識と対応について議論しました。

指定避難所での感染症予防対策の現状と課題について 【企画部長】

- 指定避難所を開設する際は、現状は校区市民館や地区市民館など第一指定避難所を優先的に開設していますが、避難者が3密とならないよう、状況に応じ小中学校などの第二指定避難所も開設します。
- 感染症予防対策として、マスクやアルコール消毒液に加え、非接触式体温計や除菌水の整備を進めるとともに、発熱や咳等の症状のある避難者には専用スペースを設けます。
- 災害時物資供給協定を締結している企業より感染症予防に有効な「間仕切り用段ボール」や「段ボールベッド」を供給していただきます。

◆課題は、

- 避難所運営マニュアルに感染症予防対策が反映しきれていない
- 小中学校以外の指定避難所では施設利用計画が未策定
- 市内全小中学校で施設利用計画を作成した計画に、発熱、咳等の症状のある避難者の専用スペースが確保しきれていないことです。

感染症拡大が危惧される中での避難の考え方について 【企画部長】

- 発災時に避難所へ行かなくて済む事前対策のポイントは5つあります。
 - ① 自宅の周辺のリスクを事前にハザードマップ等で確認する。
 - ② 耐震診断・耐震改修や家具の固定をしておくこと。
 - ③ 災害発生前に親戚宅や友人宅への避難を計画すること。
 - ④ 備蓄食料は保存食に限らず、缶詰やレトルト食品など常に使う料を使った分だけ購入するローリングストックする。
 - ⑤ 避難所へ避難せざるを得ない場合は、マスクの着用や消毒用アルコール、体温計を持参するなど、各自感染症対策をとる。
- これらの対策はホームページや報道機関を通し広く啓発を行いました。

課題への具体的な対応について 【企画部長】

- 今後は、教育委員会と連携し、小中学校の施設利用計画をブラッシュアップしていきます。
- 現在未策定となっている、公立高校など、市の公共施設以外の避難所における施設利用計画の作成に取り組みます。
- 福祉部局と連携し、避難所運営マニュアルに、反映しきれていない感染症対策を盛り込みます。
- 改訂後は、マニュアルに基づいた感染症対策を取り入れた避難所開設・運営訓練を実施し、その実効性を高めていきます。



「分散避難の考え方への課題認識」について 【企画部長】

- 分散避難とは、在宅避難、車中避難、親戚・友人宅避難などです。
- 在宅避難は、避難行動の中で最も有効な手段ですが、津波や河川氾濫など浸水する危険のある場合や土砂災害が想定されるところに住んでいる方については、緊急指定避難場所はじめ安全な場所へ水平避難することが原則となります。
- 状況に応じた避難行動がとれるような防災意識が不可欠です。
- 車中避難は、緊急避難時の渋滞や水没といった危険があります。
- マイカーでの長期避難はエコノミークラス症候群発症のリスクがあります。
- 本市はマイカー避難を推奨していません。
- 親戚・友人宅避難は、有効な手段です。
- 最後は個人の判断となります。
- 「自分の命は自分で守る」、そのための最良の選択ができるよう日頃から市民への防災講話、防災訓練など啓発活動に力を入れていきます。

自治体間での相互応援協定について 【企画部長】

- 現在、横須賀市、尼崎市、菊川市のほか、全国に60ある中核市や三遠南信地域全39市町村と締結しています。
- また、消防・救急業務や応急給水、廃棄物処理などについて、県内市町村等と個別に協定を締結しています。
- 他にも、総務省の対口支援制度や全国知事会、全国市長会からの応援など様々なスキームがあります。

まとめ

- 今、大規模災害が起きたとしても世界はコロナで傷ついており、海外への支援は困難な時代にあると見受けられることから、頼りになるのはわが国の中での応援であり、自治体間の相互応援協定は重要性を増している。
- わが国に3つのプレートがあることはよく知るところですが、プレートごとにリスクを避けた形で自治体間での相互応援協定を結ぶという考えをこの際検討していただきたい。
- 「エール」でご縁を結んだ福島市との相互応援協定を期待します。

あとがき

■ 日本社会の未来の持続可能性においては、超過密都市問題や、グローバル化の負の側面が語られています。

■ そのようななか、新型コロナは、人生100年時代、人生120年時代といわれるライフデザインを描きなおす時間を私たちにくれたとも言えます。

■ 人大平元首相『田園都市国家構想への回帰』ではありませんが、生のより望ましいかたち“ウェルデザイン”を考えるのは将に今です。

■ 集中から地方分散へ、開かれたローカリズムが求められる今だからこそ、『ともに豊橋市歌を歌おう！いざ挙げ』のプロモーションのもと、本市定住人口の獲得とともに、豊橋を、東三河を、日本中を元気にする「エールをおくるまち 豊橋」に広げようではありませんか！

市政報告会のお知らせ

日付 令和2年10月28日(水)

時間 18時30分より

会場 カリオンビル(松葉町2丁目)

お気軽にお越しください！



発行

伊藤とくや事務所
豊橋市松葉町3-70

☎ : 090-3855-9696

FAX : 0532-53-4557

bbito@me.com